

第5回松山駅周辺笑顔あふれるまちづくり推進協議会 会議概要録

開催日時：平成28年10月21日（金）

午後1時30分～午後3時

場 所：松山市役所 本館3階第2会議室

午後1時30分 開会

《挨拶》

【曲田会長】

- ・本日の協議会は、協議会としてのガイドライン案を仕上げる重要な会議であり、しっかりと議論して地域に示していければと考えている。

《委員紹介》

- ・別紙名簿参照

《議題1. まちづくりガイドラインの検討》

【事務局説明】

- ・前回の協議会で示したガイドライン案に対する意見（今の良さを残しつつ松山の良さを出していくこと、駅周辺を歩いて楽しい空間にすること、防犯・治安の観点、松山らしさなど）をもとに、修正したガイドライン案の内容を説明
- ・今後の予定として、11月以降、拠点地区の地元勉強会において地権者との協議を行い、必要に応じて内容を修正し、次回第6回の協議会での検討を経てガイドライン策定を目指したい。

【A委員】

- ・喫煙ルーム設置や分煙の推進が必要である。
- ・ポイ捨て対策や清掃活動の充実も大切である。
- ・店舗は減る一方なので、来訪者向けのお薦め場所を増やす等商業機能の充実を図る必要がある。
- ・わかりやすい観光案内の設置が必要である。
- ・多くの撮影ポイントがある駅にしてほしい。
- ・ゆるキャラを設置することも検討してほしい。
- ・明るくロマンある素敵な駅にしてもらいたい。
- ・近年、外国人観光客も増えているので、英語での表示板も増やしたほうがいい。
- ・トイレについて、道の駅のようなトイレへの改善・充実が必要である。化粧室、おむつ替えスペース等の充実や多目的トイレは必ずほしい。便器は洋式化し、数も増やす

必要がある。

- ・待合スペースは、高齢者も多く座れない人がいるのでベンチ等を充実してほしい。また、ゆとりある、きれいな場所に設けてほしい。
- ・昔ながらのポストや石碑、交番前の松の木等は、今後も残せたらよい。
- ・文化を感じるような地元の方の作品や、絵のあるマンホール、砥部焼を使ったタイルなど、そういうもので松山らしさが出るかもしれない。

【事務局】

- ・案内板の誘導や多言語の案内板の設置、松山らしさの表現ということで具体的に提案いただき、わかりやすく説明していただいた。大きな方針はガイドラインのⅢ-5「公共交流施設・鉄道施設を賑わいの核にしよう」に示しているので、今後、具体的検討をする際に使いやすい施設となるようにしていきたい。
- ・案内板の誘導については、ガイドラインのⅢ-11「屋外広告物の質を高めよう」のところで、ある程度統一されたスタイルの案内板を設置することや、Ⅲ-25「みんなにやさしい空間づくりをしよう」で、外国人や視覚障がいのある方に対する具体的な整備の事例を挙げている。
- ・待合室のゆとり、具体的なトイレなど、今後、施設をそれぞれ整備する際に協議をしながらやっていきたい。
- ・今指摘されたことも大きな方針であるガイドラインに示している。大きな方針として合意していただければ、今後、松山駅周辺地区が全体としてまとまった拠点となるような整備を目指していけると考える。

【曲田会長】

- ・駅舎については、JR 四国さんに考え方等を説明していただきたい。

【四国旅客鉄道株】

- ・現在の駅舎は、近々鉄道高架事業で変わることもあり、バリアフリーの基準、外国語表記等のことを踏まえながら、できる範囲で順次改良している。
- ・喫煙場所については、将来的には完全分煙も選択肢と考えている。
- ・将来的に駅ビル、駅舎をどのように作っていくのが一番賑わいづくりに寄与できるのかということも考えながら進めていきたい。

【B委員】

- ・先月、金沢に行ったが北陸新幹線が開通し、以前とは見違えるような景観、設備になっていた。駅を出たところの門も、金沢の伝統芸能である宝生流の鼓をイメージした柱のデザインで金沢らしさを演出していた。
- ・松山駅の目指すものはどういう方向性があるのか考えたが、なかなか具体的なイメージは浮かばない。そのあたりをそろそろ具体的な形で見えるような方向を出して

いかなければいけないのではないか。世界に誇れるような駅舎、駅周辺整備ができればいいのではないかと考えている。

- ・回遊性ということで、市内電車が構内に引き込まれた場合の大手町方面への移動手段を具体的に検討いただきたい。
- ・金沢駅では、石川県全体の観光が 1 カ所で案内できる立派な観光案内所が整備されており、そういったところも松山は遅れていると感じた。
- ・駅舎や駅ビルは、周辺整備に与える影響が大きく、平成 32 年度まであと 3 年余りのため、具体的な案を早く示してほしい。

【事務局】

- ・路面電車を駅前広場に引き込むということについては、バス乗り場、タクシー乗り場、自家用車駐車スペース、歩行者の動線等を踏まえ、駅前から大手町側へのアプローチの仕方も合わせて、今後検討していく。
- ・現在、愛媛県が平成 32 年度の完成を目指して鉄道高架化事業を進めているが、高架化した後に松山市が土地区画整理事業のなかで JR 四国さんに土地を返すことになるので、駅ビルに相当するような施設建設はその後になると考えている。

【C委員】

- ・駅舎のイメージがないと将来どのようなまちになるのかわからない。JR 四国さんの方で、駅舎の建設計画、概要はできているのか。

【事務局】

- ・車両基地跡地について、去年の 5 月に情報文化交流拠点として松山市が将来的に整備したいということで基本構想を公表しているが、愛媛県さんや JR 四国さんは現在検討中と伺っている。

【四国旅客鉄道株】

- ・駅については、高架下に切符売り場や改札をつくり、ホームは上にあるという形で、基本的な設計を始めている。
- ・高架下以外の駅前の民間敷地については、社内で検討している段階である。

【C委員】

- ・高架下は駅の機能だけか。

【四国旅客鉄道株】

- ・高架下には駅の機能が基本的に入るが、スペースを見ながら、売店等も検討する。駅前の民間敷地について今後どうするかは社内でも検討している状況だが、人の集まる賑わいづくりに寄与できるものは作りたいと考えている。

【曲田会長】

- ・ガイドラインの中身をさらにどう具体化させるかというのは次のステップになるので、この方針でいいのかということについて今日は確認したい。

【A委員】

- ・金沢駅は、きれいな駅ランキングで1位であり、そういう視点にも着目していただきたい。
- ・ガイドラインの変更としては、明るくという言葉を必ず入れてほしい。松山らしさというのは明るく元気なオレンジなカラー、勢いのある感じがある。
- ・現在の地下道を、大手町への架け橋となる機能として有効活用してほしい。
- ・駅構内に市内電車の案内がないため、県外の人にはわかりにくい。また、運行方面ごとにお薦め観光情報の発信もあるとよい。
- ・駅について、大正ロマン的か近代的か、今の三角屋根を残すのかビルにするのかなど、オープンにしてアンケート等で意見を聞いてほしい。

【事務局】

- ・具体的に指摘されたことについては、今後さまざまな方々のご意見をいただきながら検討を進めていきたいと考えており、本日はその前の大きな方向性を決めるガイドラインについて意見を伺いたい。

【曲田会長】

- ・さまざまな具体的提案をいただいたが、それらは今後詰めていくものと思う。そのための手がかり書としてのガイドラインということであるが、明るくという言葉はどこかに使うことができるかについては、正副会長に一任ということで、このガイドライン案についてお認めいただけるか。

【各委員】

～異議なし～

【曲田会長】

- ・ありがとうございます。ガイドライン案についてはお認めいただいたということで処置する。

《議題2. 景観計画・地区計画の検討》

【事務局説明】

- ・ガイドラインの取り組み事項としても挙げられている、景観形成と土地利用に関しては、一つの手法として、一定の法的効力をもつ「景観計画」「地区計画」の制度に

よって、これらの方針を担保したいと考えている。

- ・景観計画で景観上のルールである景観形成基準を定め、J R松山駅周辺を『松山駅周辺景観形成重点地区』、大手町通り沿道を『大手町通り景観形成重点地区』として、良好な景観形成を進めることを説明
- ・地区計画は、都市計画法や建築基準法に定められた都市計画制度の1つであり、ある一定のまとまりをもった地区について、土地利用の方針や、建築物の用途制限など、まちづくりの具体的なルールを定めることで、その地区の特性にふさわしい市街地の整備を図ろうとするものであることを説明

【B委員】

- ・松山駅周辺の景観計画は、大体いつごろを目途に策定する予定なのか。

【事務局】

- ・11月以降に地元勉強会や景観に関する意見交換会等を開催し、計画の素案を作っていく、ある程度まとまった段階でこの協議会にも報告させていただく。景観計画は景観法によるものであるため、松山市景観審議会で審議し、パブリックコメント等で市民に諮る。概ね合意いただければ都市計画決定の手続きに入りたいと考えており、これを平成29年度の終わりぐらいを目標としている。

【D委員】

- ・今回の地区の中で新しく街路を作って、そこに路面電車を新しく延伸するという計画があると思うが、路面電車の弱点として、架線を支えるためにさらに架線を張るため、道路の無電柱化をしたとしても、景観的な課題が残るといえることがある。鹿児島などのように、センターポール方式といって、真ん中にポールを立てて、その両側で線を支える方式もあるので、新しい路線を作るときにそういったものも議論していただきたい。

【伊予鉄道株】

- ・センターポール方式にすると40～50cm、軌道幅が広がるので、都市計画の道路幅員の関係、問題等が出てこようかと思うが、道路管理者の考えもあるので、検討事項だと思っている。

【曲田会長】

- ・景観計画、地区計画は本日の協議会ではなく、今後の地元勉強会等で具体的に検討するというので、ここでは大枠づくりをしていくことに留める。

【事務局】

- ・ガイドラインが言わば紳士協定であるのに比べて、地区計画と景観計画は法的に定

めるものなので、それを遵守する必要がある。紳士協定で大筋を決めて、個別の指導については地区計画と景観計画を定めて、この地区をより良くしたいと思っている。今後それに基づいて地元の方々と意見交換をしながら案を作り、協議会にも説明して議論を進めていきたいと思っている。

《議題 3. 周辺土地利用の検討》

【事務局説明】

- ・松山駅周辺は、今後、土地区画整理事業区域内の建物等が数多く新築され街が生まれ変わることから、この機会をとらえ、都市拠点として必要な都市機能の誘導と土地の有効活用の促進を図るため、今年度から土地利用に関する調査を行うことを説明
- ・そのスケジュールとしては、本日の協議会后、11月以降に、拠点地区の地元勉強会の中で地権者に事業の説明を行い、その後、ガイドラインや景観・地区計画のアンケートと一緒に土地利用等に関して意見を伺う。また、第2回の勉強会ではアンケート結果を報告し、平成29年度以降に、学識経験者の意見等もいただきながら土地利用方針の検討等を行い、望ましい土地利用のあり方について、協議会や地元勉強会で検討を行いたい。

【曲田会長】

- ・土地利用計画についても今後検討していくという宣言である。
- ・ガイドラインについては承認いただいたものとして、一部議論の中で出た文言については、組み入れることができるかどうか、正副会長、事務局のほうで検討するという事でお任せいただきたい。

午後3時 閉会